八王子市版 GIGA スクール構想
Global and Innovation Gateway for All

【八王子市版 GIGA スクール構想第１期（令和３年度（2021 年度）～令和７年度（2025 年度））の成果と課題】
自分に合った学び、仲間とともに深める学び、創造性を発揮できる学び
～ 誰一人取り残さない、ICT を活用した教育の充実 ～

別紙１

「児童・生徒の情報活用能力調査」及び「学校における教育の情報化の実態に関する調査」等の結果から（令和３年度（2021 年度）・令和７年度（2025 年度）実施）

「情報活用能力」について

【児童・生徒の自己評価】

○基本的な操作の組み合わせにより、行おうとしていることを完結できる。（小学校第６学年・義務教育学校第６学年）
開始期 79.5% → 定着期 90.9%

○文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを活用し資料を作成できる。（中学校第3学年・義務教育学校第9学年）
開始期 59.3% → 定着期 73.2%

【教員の自己評価】

○学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作を児童・生徒が身に付けることができるように指導できる。
開始期 83.7% → 定着期 89.2%

○児童・生徒が、文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどを活用して、自分の考えを整理したり分かりやすくまとめたりできるように指導できる。
開始期 72.7% → 定着期 81.9%

≪加住小中学校の取組≫

毎週金曜日の朝学習の時間を「GIGA の時間」とし、市教育委員会が示す、児童・生徒が発達段階ごとに身に付ける情報活用能力をまとめた系統表をもとに、加住モデルを作成し、各学年の児童・生徒の実態に応じた活動が実施されている。また、各学期末には、情報活用能力調査を実施し、児童・生徒の学習や教員の指導改善に活かしている。



【GIGA の時間の様子】

「個別最適な学び」について

【児童・生徒の自己評価】

○ICT 機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。（小学校第6学年・義務教育学校第６学年）
定着期 80.0%

○令和7年度に児童・生徒一人当たりが取り組んだデジタルドリルの問題数（株式会社ベネッセコーポレーション調べ） 約475問

【教員の自己評価】

○知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童・生徒の一人ひとりの理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませることができる。
開始期 72.0% → 定着期 82.3%

○児童・生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解しようとしたりする意欲が育まれるように指導できる。
開始期 84.7% → 定着期 91.1%

≪東浅川小学校の取組≫

授業や家庭学習の中でデジタルドリルを活用し、児童が自身の得意・不得意に応じて学習に取り組む時間を設けている。また、デジタルテストを活用し、児童が学習の定着度を単元ごとに把握し、学習改善に向けた取組を立てさせるなど、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行っている。



【デジタルテストの活用】

「協働的な学び」について

【児童・生徒の自己評価】

○共同編集による調べ学習のまとめと発表を、スライド作成ソフトで行うことができる。（中学校第3学年・義務教育学校第9学年）
開始期 86.5% → 定着期 89.8%

【教員の自己評価】

○グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させることができる。
開始期 68.5% → 定着期 79.4%

○児童・生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータや学習用ソフトなどを活用することを指導できる。
開始期 68.1% → 定着期 79.9%

≪恩方中学校の取組≫

地域の魅力について学習した内容を、生徒がグループごとに、学習用端末の共同編集機能を活用して資料にまとめ、学級や学年で発表会を実施している。また、姉妹都市である北海道苫小牧市の中学校とオンライン交流会を実施し、代表グループが互いの地域の魅力を紹介し合い、意見交換や質疑応答などの交流を図っている。



【姉妹校とのオンライン交流会】

八王子市版 GIGA スクール構想第２期に向けて

Ⅰ 児童・生徒の情報活用能力育成に向けた取組の継続（情報活用能力系統表に基づく児童・生徒向け教材（はちおうじっ子デジタルミニマム等）の開発と八プラ等による周知　等）

Ⅱ 教員の ICT 活用指導力向上に資する取組の充実
- ICT を効果的に活用した指導事例の共有（各教科等の特質を活かした活用、児童・生徒の能力・特性に応じた活用、探究的な学習における活用、の視点に基づく授業動画の公開　等）
- ICT が苦手な教員へのアプローチの工夫（レベル別研修への参加促進、「ICT を活用した働き方改革」研修の開催、教員の ICT 活用指導力に応じた指導事例の作成と周知　等）

Ⅲ 一人ひとりの学びを支える ICT 環境の充実（学習支援ツール・デジタルドリル・デジタルテストの導入、統合型校務支援システムや商業用学習ｅポータルの導入検討　等）